

## 第98回二科展 巡回展 [金沢展]

11月15日(金)より24日(日)まで、金沢21世紀美術館の市民ギャラリーAとBにおいて開催された。もうすっかり全国的に有名になり金沢の名所となったこの美術館は、愛称が「まるびい」の通り、周囲全面ガラス張りの円形の建物である。会期はちょうど錦秋の候、はず向かいにある日本三名園である兼六園とともに訪れる人も多く、連日賑わいを見せた。4部門計375点の作品が展示され、入場者は5061名であった。

絵画部では今回富山の特選、石川の新人奨励賞(しかも初入選)、会員推挙があり、初入選も多く、北陸の作家の活躍が注目された。初日に行われた開場式後の、山岸光代北陸支部長の作品解説を皮切りに、五味祥子評議員、粕谷正一会員による解説が行われ、多くの人が参加を楽しみに来場され耳を傾けた。また、高校の芸術コースの生徒さんや中学校の美術部の生徒さんが団体鑑賞で訪れ、先生から出された課題に対し、作品を見ながら色や構図を書き留める姿や、作品について語り合う姿が報じられた。

彫刻部作品は巡回展の都合で小品になるが、ずらりと並んだ彫刻一つ一つを、角度を変えて丹念に眺める来場者の姿が印象的であった。東京の会場風景を紹介する写真パネルにもちゃんと足を止めて目を凝らし、東京の作品群に思いを馳せているようだった。石川の会友賞の受賞作品が会場で注目された。

デザイン部の展示のように、たくさんのイラストやポスターを一堂に見ることができる機会は北陸では珍しく、二科展ならでのことであり、来場した人々の目を楽ませることができた。アイドル歌手グループのメンバーも入選しており、そのニュースを知っている人が作品を探す姿が見られた。

写真部では、写真に関心を持つ人々で賑わった。最近、誰でも手軽に写真が撮れる機種が数多く出回り、芸術的な写真を撮ろうとする愛好者が増えている。土田貴夫写真部理事による作品解説が行われ、思いのほか若い人達で賑わいを見せ好評であった。

(文責 絵画部会友 邑井吉治)

